



夢への挑戦!



自信と誇りと感謝を胸に!

小野中学校だより

第 26 号

文責：校長 大河原久宗

2020.1.8.WED

TEL:72-3355 FAX:72-2829

<教育目標>

【夢～自立・友愛・健康】

- ・課題を持ち、進んで学ぶ生徒
- ・互いのよさを認め、高めあう生徒
- ・健康で、心身を鍛える生徒



令和元年度 3学期始業式!

明けまして、おめでとうございます。子どもたちが、こうして元気に集うことができ、うれしく思います。

冬休みはどうでしたか? 「ありがとうございました」

の感謝の言葉を心を込めて言うことができましたか? 3学期も多くの人に見守られながら過ごすこととなります。感謝の気持ちを素直に表現できる自分を大切にしてください。

さて、第96回東京箱根間往復大学駅伝競走は1月2、3日、東京・千代田区大手町の読売新聞社前～神奈川・箱根町の芦ノ湖を往復する10区間217・1キロで開催され、3日の復路(5区間 109・6キロ)を1位でスタートした青山学院大学が1度も1位をゆずることなく、大会記録を6分46秒更新する、10時間45分23秒の大会新記録で、2年ぶり5度目の総合優勝を飾りました。原晋監督が今大会に臨むにあたり、「青学は強かった、やっぱり今年の4年生は強かった、と大手町で思ってもらえるような駅伝をしたい」という思いを込めてテーマとして掲げていた「やっぱり大作戦」は、見事に具現化されました。花の2区に抜てきされた1年の岸本選手が首位を奪う力走を見せれば、4区で念願の箱根初出場を果たした4年の吉田祐選手が区間新。采配が「びたっとはまった」と原監督。昨年の負けた悔しさをバネに4年生を中心に全員駅伝でチームが一つなり、夢が叶った青山学院大学。来年の箱根も楽しみにになりました。

小野中の3学期も「夢への挑戦」は続きます。何事にも挑戦していくことを忘れずに「根気・本気 覇気」の「チーム小野・ワンチーム」で取り組み、やってきたことに自信と誇りを持ちましょう。頑張れ! 小野中生! 寒さに負けず、今年も頑張りましょう。

新しい年の初めにあたり、今よりさらにいい学級・学年・学校だったとだれもが言えるものにするために、もう一歩の前進をして一年のまとめをしっかりとしてほしいと思います。そのために、日々の生活の中で心がけてほしいことをお話しします。

それは、「他の人のために何かできないか」 考えてほしいのです。自分が困ったり、苦しんでいるとき、助けられ、励まされ、感謝した体験は誰にでもあると思います。集団の中の一人として生活する時、自分のことだけ考えていたのでは、楽しく、充実した学校生活は送れないことも十分わかっているはず。まず、自分から、他の人のために何かをすることによって、自分自身が助けられ、自分がここにいることの意味が実感できるのです。学校行事、生徒会活動、部活動、学級・学年活動を中心に、一人ひとりが、「他の人のために何かができる」時、より楽しい学級や学年、学校になるのです。何かをすることが他の人のためばかりでなく、自分自身のためであることを心にきざんでほしいものです。充実した3学期にしましょう。

3学期の行事のメインは「卒業式」でしょう。3年生にとっても1・2年生にとってもこの1年の中で最高の思い出になるような式にするためにも、「他の人のために何かできないか」を考えて生活してほしいのです。

3年生にとっては、進学(入試)に向けて忙しい時期かもしれませんが、忙しい時期だからこそ、心にゆとりをもち、「他の人のために」と考えることは大切だと思うのです。そんな生徒が通う学校であってほしいです。「誰かの笑顔のために頑張る」、すてきなことだと思いませんか。そんな心をみんなで作ってたらすてきな学校になるのでしょうか。

今日から始まる51日間(46日間)の3学期、「誰かの笑顔のために」、「他の人のために何かできないか」の心で生活し、ねずみのように「歩幅が狭くとも、たゆまず歩み続け、夢にたどり着くことができる」よい年になることを願っています。



3区で鈴木選手に給水する竹石選手



ゴールするアンカー 青学大：湯原慶吾選手(2年)